



子どもの 未来のために ～教育の新たな取り組み～



特派員：小野 洋子



子どもたちの今、そして未来のための
学習が充実しています。

- 「ことばであそぼう推進事業」
- 「仲間同士の絆づくりプロジェクト」
- 「道徳」の取り組みをご紹介します。

ことばであそぼう推進事業

● 小学校低学年を対象に「国語力」の育成を図るために、「ことばであそぼう推進事業」を実施しています。国語はすべての教科の基本であり、「国語力」の育成には、発達段階に応じた学習が求められています。「ことばであそぼう推進事業」は、思いや考えを書くことで言葉（国語）への興味・関心が高まり、言葉の良さに気付き、自分を表現したり相手に理解したりすることができるようになることを目標にしています。

● 今回は、常総市立絹西（ねんせい）小学校の授業風景取材しました。一年生は「ことばカルタ」づくりです。「あ」から「わ」まで、それぞれの音ではじまる言葉を使って文を考え、それにあった絵を描きます。学期に一回、二～三時間の学習を行います。子どもたちはグループで話し合いながらカルタを作成していきます。一つの音からいろいろなことを思い浮かべ、ことばから考えた絵も伸び伸びと描かれていて、子どもたちの豊かな想像力に驚かされました。

● 二年生は「絵てがみ」づくりで月に一度程度の学習です。手紙は決められたテーマにあった文章を書き、それに関連する絵を描きます。今回の授業では、敬老の日をテーマに自分の祖父母への手紙を作成していました。子どもたちはみんな真剣で、

● 素直な気持ちをそのまま言葉にする子、絵を先に描く子と、それぞれでしたが、最後には思い思いの言葉がたくさん書かれていました。

● 三年生は「漢字一字からの思い」づくりを、週に一度程度行っています。好きな漢字を一字選び、カードの上半分に大きく丁寧に書き、下半分にその一字から思いつくこと、選んだ訳などを文章にしていきます。教室には、自分の名前から一字を選んだ作品が飾られていました。子どもたちに話を聞くと、やはり自分の名前が大好きだということでした。

● 石塚（いしづか）壽子校長は、「この授業は、言葉を通しての人間関係づくりや、コミュニケーション能力の向上も目的としています」と話していました。今回の取材で、私自身「ことば」とあらためて向き合う機会をいただきました。もつとたくさんの言葉を子どもたちと交わしていきたいと思いました。



二年生は「絵てがみ」づくり。今回のテーマは「敬老の日」

応援しよう!
**ねんりんピック
茨城2007**
「オセロ」

11月10日(土)から
13日(火)まで
茨城県で開催



オセロは水戸市が発祥の地であることから、茨城大会で初めてねんりんピックの正式種目として採用されました。



今回は、個人戦・団体戦ともに出場される水戸市の五軒地区高齢者クラブ連合会の練習を取材させていただきました。高齢者クラブ連合会の潮田さんは、「オセロはどこでも誰でも気軽に楽しめ、高齢者でも手軽に始められます。勝負が最後まで分からないのも面白い。ねんりんピックを契機にもっと皆さんに広めていきたいです」と話していました。



私も潮田さんに教えていただきながら楽しく対戦することができました。
(笹本 悦子)

ねんりんピック茨城2007 オセロ交流大会
11/11(日)・12(月) 水戸市総合運動公園体育館
ねんりんピック茨城2007実行委員会事務局
☎029(301)3338

11月1日は「いばらき教育の日」
11月は「いばらき教育月間」

子どもたちのモラルの欠如、家庭の教育力の低下など、さまざまな教育問題が深刻化する中、社会全体で教育の重要性を再認識する契機とするため、毎年11月1日を「いばらき教育の日」、11月を「いばらき教育月間」としています。

「教育月間」には県内各地で教育に関するさまざまな取り組みが行われます。詳しくは、ホームページをご覧ください。



こころを育てる

みんなで教育を考える

「いばらき教育の日」
推進大会

- 日時 11月1日(木) 10:00開会
- 会場 県民文化センター 大ホール
- 内容 記念講演・実践発表など

☎県教育庁企画広報室 ☎029(301)5152 FAX5159

HP <http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/kyouikunohi/ibaraki.htm>

仲間同士の絆づくり
プロジェクト

いじめ問題をはじめとする対人関係の深刻なトラブルが発生しないよう、児童や生徒同士、児童生徒と教職員相互の信頼関係や、好ましい人間関係を築き上げるための事業として、今年度から「仲間同士の絆づくりプロジェクト」がスタートしました。

子どもたちは、相手の立場で考えるにはどうしたらいいか、自分の気持ちを伝えるにはどうすべきかなどを学習(学校生活スキルトレーニングなど)します。また、教職員は、発達段階に応じた指導内容・方法を設定します。県では、学校の求めに応じて、スクールカウンセラー、臨床心理士、大学教授などの専門家を絆づくりサポーターとして派遣しています。

子どもたちの日ごころの言動や対人関係のストレスなどの実態を把握し、保護者の要望や専門家の意見を取り入れた上で、実施プログラムを設定します。

この事業を通して子どもたちが、いじめを生まない人間関係(絆)や、対人関係のトラブルに対応していける力を身に付けてくれることを願っています。

☎県義務教育課生徒指導推進班
☎029(301)5222 ☎52222

「道徳」

本県の高等学校では、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育をさらに充実させるため、今年度から、県立高等学校のすべての一年生を対象に「道徳」の授業を週一時間実施しています。生徒一人一人が、人生や社会を切り開いていこうとする実践的な力を高めることがねらいです。

テキストを使った授業を中心に、企業や地域社会などで活躍されている方などを、ゲストティーチャーとして招いた授業も行っています。さらに、有識者を「道徳」実践アドバイザーとして各学校に派遣し、教員への指導、助言も行っています。

「道徳」の授業が、高校生にとって自己を見つめ、自分の人生や生きることの意味などをじっくりと考える充実した時間となることを期待しています。



「道徳」の授業風景

☎県高校教育課豊かな心推進担当
☎029(301)5222 ☎52222